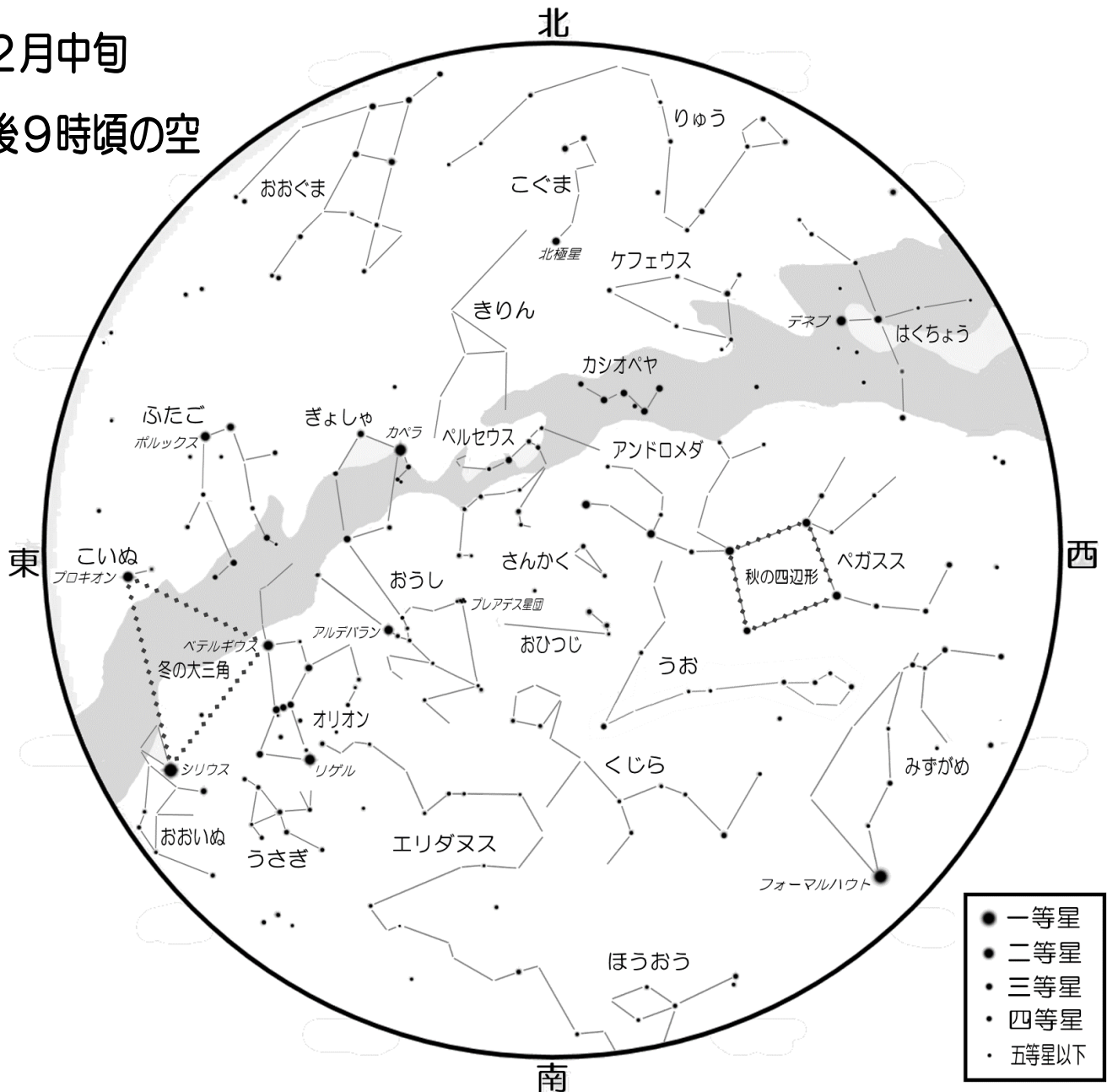


阿南市科学センター 12月の星空案内

12月中旬

午後9時頃の空



季節の移り変わりとともに、夜空を飾る星々も徐々に秋の星空から冬の星空に様変わりをしています。良く「冬の星はきれいに見える。」と言われますが、これは寒いことが大きな原因となっています。気温が低くなれば空気中に含まれる水蒸気の量が少なくなり、その結果、星の輝きが鮮やかに感じられるのです。

また、徳島県南地域は、その地形の関係から、寒くなればなるほど晴天率が高くなるため、美しい星が見られる機会も多くなります。寒い時期ではありますが、良く澄んだ冬空のもと、秋から冬に入れ替わる夜空の様子を楽しんでみましょう。

天体観望会のご予約、お問い合わせは

阿南市科学センター 徳島県阿南市那賀川町上福井南川洲 8-1 電話 0884-42-1600

12月の月と惑星

月の満ち欠け

| 月の形 | ○満月 | ●下弦の月 | ●新月 | ●上弦の月 |
|------|-----|-------|-----|-------|
| 見える日 | 4日 | 10日 | 18日 | 26日 |

惑星

| | 水星 ● | 金星 ● | 火星 ● | 木星 ● | 土星 ● |
|----|-----------------------|-------------|-----------------------------|-------------------------------|-------------|
| 上旬 | 太陽に近く観察は難しい | 太陽に近く観察は難しい | 夜明け前、東の空に見える (1.7 → 1.5 等級) | 夜明け前、東の空に見える (-1.7 → -1.8 等級) | 太陽に近く観察は難しい |
| 中旬 | | | | | |
| 下旬 | 日の出前、東の低空に見える (0.1 等) | | | | |

天文館夜間天体観望会 12月の見もの

○夜空の青い雪玉「NGC7662」

12月に入ったと言っても、現在の星空は秋の星座が西半分、冬の星座が東半分で、まだまだ秋の天体も見えています。今回はそんな秋の天体に属する、小さいながらも分かりやすい惑星状星雲「NGC7662」をご紹介します。この天体はアンドロメダ座にあり、午後7時ころにはちょうど頭の上からやや北側に見えます。明るさは9等級ですが、小さな望遠鏡でもその存在はわかるほど、実際の明るさよりも明るく感じます。

さて、冬の時期と言えば、クリスマス、そして雪ですね。実はこの星雲には「ブルー・スノーボール」というたいへんロマンチックな別名が付いています。まさに今の時期にぴったりの名前だと言えるでしょう。

天文館の大型望遠鏡で見ると、その色が本当に青く見え、そのような名前が付いた理由が良く分かります。今月の天体観望会でもこの天体をご覧いただけますので、どうぞ夜間の天体観望会にご参加いただき、この美しい星雲をご覧下さい。



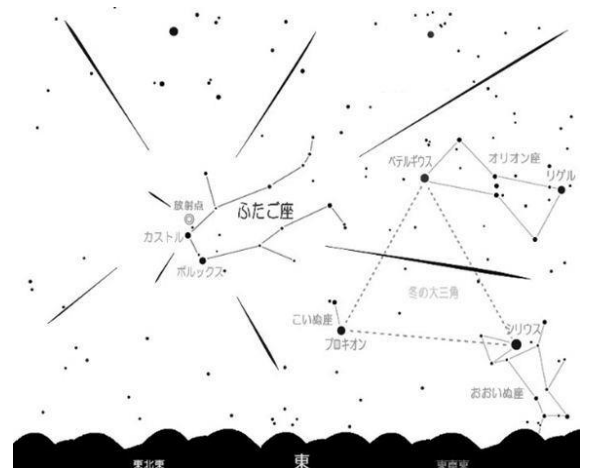
今月の天文現象

12月14日(木)ふたご座流星群

毎年、安定して流れ星を発生させる「ふたご座流星群」が14日にピークを迎えます。この流星群は1月のりゅう座流星群、8月のペルセウス座流星群と並んで、3大流星群のひとつとして有名で、夜空の暗いところでは、1時間あたり50個程度、夜空の明るい街中でも1時間あたり数個の流れ星を見ることができます。

今年のピークの時間は14日の夕方と予想されていますが、ピークを過ぎたからと言ってその後は全く流れないということはありません。逆に、ピークが夕方になることによって、一般の方が観察しやすい午後6時～午後10時くらいには、今年は非常に観察しやすい条件ということもできます。また、その日の月齢は26ですから、流星観察に邪魔となる月明かりの影響もほとんどありませんので、長い時間観察できる人は一晩中楽しめることもできるでしょう。

なお、観察する方向ですが、流れ星はいつ、どこに流れるかわかりませんので、地面に寝転がるなどしてできるだけ空の広い範囲を見るようにしましょう。この時期は大変寒い時期でもありますが、特にまだ流れ星を見たことがない人は、絶好のチャンスとなりますので、晴れていたら30分程度でかまいませんから、夜空を見上げてみて下さい。



12月14日 午後10時ころの空

天体観望会のご予約、お問い合わせは

阿南市科学センター 徳島県阿南市那賀川町上福井南川洲 8-1 電話 0884-42-1600